

一般社団法人「東の食の会」活動実績報告書 (平成23年6月8日～平成24年3月31日)

【1】概要

東の食の会は、東日本の食関連産業の復興と創造を促進することを目的として、食の分野の復興に向けた業界横断のプラットフォームを提供し、具体的な経済効果を生み出すための活動を行ってまいりました。

東日本大震災後の6月に設立後、主要な食関連企業のご参加・ご協力を得て、東日本の食と、都市圏の消費者・流通とのマッチングをはじめ、放射能検査体制の確立による安全・安心に関する取り組み、政策提言等、精力的に活動を続けております。

国内外のメディアに数多く取り上げられているほか、農林水産省が進めるフードアクション・ニッポンの「食べて応援しよう賞」を受賞するなど、復興支援団体の中でも食の分野において代表的な団体となり、広く認知を獲得しております。

【2】5つの活動領域

「東の食の会」では、以下の5つの領域に注力して活動を行いました。

- I. マッチング
- II. 販促・イベント
- III. 安全・安心
- IV. 政策提言
- V. 資金的支援

【3】主な実績

- ・農林水産省フードアクション・ニッポン「食べて応援しよう賞」受賞
- ・簡易放射能検査プロトコルの確立・発表
- ・食を通じて東日本の復興を支援するイベント「Food Relation Network × 東の食の会」開催
- ・「食の産業サミット」開催による国内外メディアへの「東の食」の発信
- ・経済産業省クールジャパン事業支援

【4】活動ご報告

1. マッチング

1. マッチング

東の食の会のウェブサイト上に、会員企業（食品卸・小売・外食・製造業者）向けの生産者データベースを設置し、東の食の生産者の背景や商品情報を提供。また、会員企業側のニーズを聞き取り、生産者のメールマガジンにて商品を募集する等により、生産側と販売側のマッチングを行った。

具体的なマッチング事例としては、以下の通り。

- (1) 会員企業の株式会社サッポロライオン様とのコラボレーションにより、宮城県の枝豆を気仙沼の海水で茹でた「復興枝豆」をプロデュース。「恵比寿麦酒祭」では2日で完売。オイシックス株式会社では1日で完売した。
- (2) 宮城県の白菜を使った「松島白菜餃子」をプロデュース。宮城県石釜市の蜂屋食品が商品化し、口コミで注文が増加し、販売期間終了1か月前に完売。月刊ソトコト、朝日新聞等で商品が紹介された。
- (3) 女性に圧倒的な人気を誇る野菜スイーツ専門店「パティスリー・ポタジェ」と組み、福島県南会津産のトマトジャムを使った蜂蜜入りの「東のハートのマドレーヌ」をプロデュース。楽天株式会社

の社員食堂等で期間限定で販売した。

(4) 会員企業の株式会社ウィルプランニング様による、被災地の食材を利用して風評被害に取り組む飲食店「FUJIMIZAKA」において、東の食の会生産者である株式会社グリーンファーム（福島県伊達市）などの食材をご提供いただいている。

(5) 会員企業の株式会社クインビーガーデン様が、仙台での「第二回東の食のこれからを考える会」を通じて、高砂長寿味噌本舗（宮城県石巻市）と組み、ゴマの花のはちみつと高砂長寿味噌を組み合わせた「はちみそ」を開発。人気ベーカリー「シニフィアン・シニフィエ」や百貨店の催事などで先行販売した。

2. 地方銀行との包括提携

11月30日、岩手銀行、東北銀行、北日本銀行、七十七銀行、仙台銀行、東邦銀行の地銀6行と東の食の会の間で、地域の食産業復興のためのマッチング事業促進について包括提携を締結した。地方銀行の取引先である生産者を紹介してもらうとともに、協力してマッチング仲介活動を行っている。

2. 販促・イベント

東の食の会の認知を高め、消費者の東の食に対する理解を高めて、販売促進に貢献すべく、多くのイベントを開催した。主要なイベントは以下の通り。

1. キックオフ・フォーラム（第一回東の食のこれからを考える会）

6月24日、東京都内にて食関連企業160社200名の参加を得てキックオフ・フォーラムを開催し、生産者や国会議員等によるパネルディスカッションを行うとともに、「東の食の会」の設立と活動計画を発表した。

2. InterFoodJapan2011 出展支援

8月17日～19日、東京ビッグサイトにて開催された大規模食品専門展示会「INTER-FOOD JAPAN」の「がんばろうニッポン!!」特別企画に東日本の生産者を招待し、外食企業を中心とする来場者とのマッチング、商談を支援した。

3. 第二回東の食のこれからを考える会

9月2日、仙台市に、会員・会員候補の食品販売企業の担当者と生産者を集めて第二回「東の食のこれからを考える会」を開催、生産者側の復興ニーズを聞き具体的なアクションを議論するディスカッションと、具体的な商談を行った。

4. 東の食の福幸祭

10月29・30日に国立代々木競技場オリンピックプラザにて、食を通じて東日本の復興を支援するイベント「Food Relation Network × 東の食の会」を開催。東日本の食の生産者20名を招待し、東の食のマルシェや屋台を展開した。2日で約15000名の来場者があり、東の食のマルシェ・屋台は約1000万円の売り上げを上げた。

5. 食の産業サミット

11月30日、仙台市にて、東の食の復興をテーマに、「食の産業サミット2011」を主催（共催：経済産業省。後援：農林水産省、宮城県）。生産者の代表者や、枝野経済産業大臣（ビデオレター）、森本農水政務官、首相官邸、奥山仙台市長など行政のリーダー、安部吉野家ホールディングス社長をはじめ流通のリーダー、米国・シンガポールの大使館、俳優の伊勢谷友介氏など、業界を越えて食の復興のリーダーが一堂に会し、東の食の会のファクトベースの問題提起と復興に向けた提言に基づき、今後の具体的なアクションプランを議論した。

国内メディアとともに、海外メディアも9カ国20社21名が参加し、日本食ブランドの復興を海外へ発信し、海外の新聞等でも多く報道された。

6. N-1 サミット開催協力

2月1日、東京都内にて、特別会員のオイシックス株式会社が主催した「N-1 SUMMIT 2012」の開催協力を行い、東の食の復興提言を行うとともに、生産者の代表を集めて、今後とるべきアクションにつきパネルディスカッションを行った。

7. クールジャパン事業支援

特別会員のカフェカンパニー株式会社が経済産業省より受託したクールジャパン海外展開事業について、シンガポールに期間限定でオープンした「VIVA JAPAN CAFE」に食材を提供、また、3月11日、シンガポールにて開催された一周忌イベント「Takidashi」の開催協力を行った。

3. 安全・安心

東の食の会は、元 IAEA 顧問で、放射能安全性の国際的な専門家であるジェームズ・M・スミス教授（エモリー大学）をアドバイザーに迎え、安全・安心に関する取り組みについて専門家の知見を得ながら、自主的放射能検査の拡大を支援している。

1. 簡易放射能検査プロトコルの発表

11月30日、「食の産業サミット」の場において、東の食に対する生産者・販売者・消費者の安心を高めるため、簡易で普及性のある放射能検査の手順（プロトコル）を公表した。この東の食の会による放射能検査手順の公表は、日経新聞をはじめ主要メディアでも大きく報道された。

2. 全国豆腐油揚商工組合連合会（全豆連）への放射能検査導入支援

3月10日、「とうふフェア」において、全豆連に対して4月から施行される新たな放射能基準に対応した形の自主的放射能検査を全豆連に対して導入することを発表した。3月末にシンチレーション式のスペクトロメーターを千葉豆腐組合に設置し、技術トレーニングを行ったうえで、4月より、全豆連として、原料の大豆と、豆腐、油揚等の最終製品のサンプル検査を行う体制を整える予定。

4. 政策提言

1. 「食の産業サミット」における「東の食の復興提言」発表

11月30日の「食の産業サミット 2011」において、「東の食の復興提言」（別添2）を発表、1）インフラ、2）安全安心、3）生産・加工、4）販売、5）輸出、の5分野について、現状と課題、そして解決策の方向性を提示し、パネルディスカッションの土台を提供した。

2. 「N-1 サミット 2012」における「東の食の復興提言」（改訂版）発表

3月1日の「N-1 SUMMIT 2012」において、11月に発表した事実関係を改訂、また新たな事実関係を追加して「東の食の復興提言」改訂版を発表した。

5. 資金的支援

資金的支援については、現状、生産者に対する資金供与等の直接的な支援を行ってはいないが、農林水産省が設立することとなった、付加価値の高い6次産業化に取り組む生産者を支援するための「農林漁業成長化ファンド」について、生産者へ紹介したり、また説明のための生産者との会合の機会を提供することで、間接的にサポートしている。具体的には、「食の産業サミット」（11月30日）、宮城県生産者会合（2月13日）、N-1 サミット（3月1日）において、農林水産省に対してファンドの説明の機会を提供した。

【5】会員に関する状況

平成 24 年 3 月 31 日現在の会員企業は以下の通り。

1. 特別会員 (5 社)

オイシックス株式会社
カフェカンパニー株式会社
キューピー株式会社
キリンビール株式会社
株式会社ぐるなび

2. 一般会員 (31 社)

藍澤証券株式会社
いちかわライスビジネス株式会社
株式会社伊藤園
イヌイ株式会社
株式会社ウィルブランニング
株式会社かね善
株式会社河内屋
木次乳業有限会社
株式会社クインビーガーデン
株式会社久世
K マーケティング アンド コンサルティング株式会社
光海株式会社
コンタツ株式会社
株式会社サッポロライオン
有限会社ジャックポットブランニング
株式会社水宗園本舗
株式会社セブン&アイ・ホールディングス
株式会社手造り屋
東京デリカフーズ株式会社
とうふプロジェクトジャパン株式会社
株式会社ナチュラルハウス
南海食品株式会社
株式会社ニックフーズ
日本アイ・ビー・エム株式会社
株式会社ファミリーマート
株式会社マルツ尾清
丸和食品株式会社
有限会社味楽園
株式会社結農彩
横浜市場センター株式会社
株式会社ローソン

【6】一般社団法人東の食の会 運営体制

平成 24 年 3 月 31 日現在の会員企業は以下の通り。

<理事>

楠本 修二郎	カフェ・カンパニー株式会社 代表取締役社長	《代表理事》
高島 宏平	オイシックス株式会社 代表取締役社長	《代表理事》
立花 貴	合同会社四縁 代表	
宮城 治男	NPO 法人 ETIC. 代表理事	

<監事>

橋岡 宏成	ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 パートナー弁護士	
-------	---------------------------	--

<発起人>

楠本 修二郎	カフェ・カンパニー株式会社 代表取締役社長	
小暮 真久	TABLE FOR TWO International 事務局長	
近藤 洋介	衆議院議員	
平 将明	衆議院議員	
高島 宏平	オイシックス株式会社 代表取締役社長	
立花 貴	合同会社四縁 代表	
松田 公太	参議院議員	
宮城 治男	NPO 法人 ETIC. 代表理事	

<アドバイザーボード>

出井 伸之	クオンタムリープ株式会社 代表取締役	
ジェームス・スミス	エモリー大学教授、元 IAEA 顧問	
竹中 平蔵	慶應義塾大学教授 グローバルセキュリティ研究所所長	
野田 一夫	日本総合研究所会長 多摩大学学長	

<各県代表>

青木 聡志	株式会社ハミングバード・インターナショナル 専務取締役	《宮城県代表》
島田 昌幸	株式会社ファミリア 代表取締役	《宮城県代表》
多田 一彦	特定非営利活動法人遠野まごころネット 代表理事	《岩手県代表》
千葉 大貴	有限会社マイティー千葉重 代表取締役	《宮城県代表》
本田 勝之助	有限会社社会津食のルネッサンス 代表取締役	《福島県代表》

<事務局>

高橋 大就	オイシックス株式会社	《事務局代表》(東京本部)
藏谷 学	カフェ・カンパニー株式会社	《事務局代表》(地域本部)
芦田 克宣		《経理統括》
関 哲		《IT 統括》
原田 剛史		
築瀬 徳和		
菊地 亮太		
桐谷 聡一		